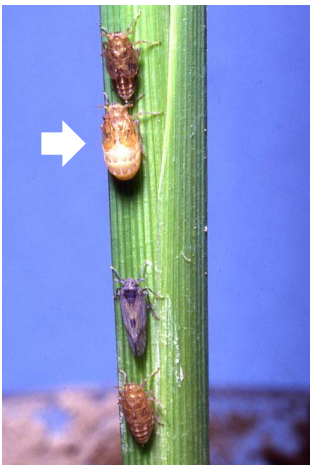


トビイロウンカの飛来が多いです！

岡山県病害虫防除所の前回の巡回調査（7月4～5日）で長翅型雄成虫のトビイロウンカが県南部で確認されており（植物防疫情報第4号 令和5年7月10日付）、更に今回の7月20～21日の巡回調査で中齢幼虫の発生を確認しました。また、赤磐市に設置している予察灯では、7月1～4半旬で9頭（平年値0.2頭）の誘殺が確認され、**この時期のトビイロウンカの誘殺数としては平年より多くなっており、今後、県下で広範囲に拡大することが懸念されます。**長期残効性の箱剤を施用していない圃場においては、特に今後の発生に注意し、防除を徹底しましょう。

<防除上の参考事項>

- (1) トビイロウンカは日本で越冬できず、梅雨期に下層ジェット気流に乗って中国大陸から飛来してきます。そのため、日本での発生量は年次変動が大きいです。
- (2) 要防除水準（成幼虫合計で株当たり10頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり0.2頭以上）を超える圃場では、直ちに防除を実施しましょう。なお、本虫は、圃場内で局所的に発生し、かつ株元に集中して生息する特性があるため、株元をよく観察し、発生状況を十分把握しましょう。調査に当たっては圃場の中央部まで入って株元をよく観察しましょう。
- (3) 農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用しましょう。また、散布に当たっては薬剤が株元まで十分到達するよう留意しましょう（農薬の一覧については植物防疫情報第4号 令和5年7月10日付 参照）。



成虫（体長約5mm）
（矢印は短翅型雌成虫）



株元に集中して生息



圃場の被害（坪枯れ）

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

